女なのか彼女なのかどっちや

列車の中で、だいぶ、休んでいるので、
目が開いて、パッチリして来たが、
何か、目のまぶたの上皮が張って、
目が重く、顔が少し、むくんでいる様だ。

登山観光専門のバスでテープコーダー設置。
もてなしと言ったら良いのかわからないが、
バスガイドさんの話し方も、バスの中の座席も、
すごく、いい、やはり、観光町か。
車のクッションもフワフワで楽ちん。

まだ僕は地元だから京都見学の観光バスには、
一度も乗ったことないが、京都の観光バスも、
こうであるべきだなあと思った。

阿蘇の中心の五つの山の名をガイドさんが
説明したが、全部覚えるにはややこしく、
結局、一つも、覚えられなかった。

その一つの山の頂上へ、くねくね道を、
荒っぽくも感じる、熟練した
腕さばきの運転操作で、バスが登ってゆくので、
登山バス初めての僕は、すこし、怖かった。

その時も、絶えることなく、彼女のことが頭に浮かんだ。
別に自分から考えようとしなくてもいつも僕の脳裏には、
いや、心の中のムヤムヤの中に、彼女がいる。